

平成30年度 及び 令和元年度 市民活動サポートセンター主催・共催事業（案）

資料 1

	平 成 3 0 年 度			令 和 元 年 度		
	タイトル（内容）	目 的	結 果	課 題	タイトル（内容）	期待される効果
情報 の 収 集 と 発 信	団体やイベント情報の発信	・サポートセンターの認知度向上及び 市内活動団体やイベントPRの場の 検討	・行田市社会福祉協議会と連携 エコキャップ回収場所としてサポートセンターを提供 市民が身近に立ち寄れる場所となり、サポートセンターの 認知度が上がる ・チラシやポスターの効果が昨年と比べてUPした	・サポセンの認知度がまだまだ低い ・サポセンにチラシやポスターを 掲示する団体が限られている	・団体紹介のパネル展示 （コミセンみずしろギャラリーにて）	・団体の活動実績が多くの方の目に触れることで、団体の PRとなる ・イベントの参加者が増え、団体のモチベーションアップ につながる ・サポセンの認知度もあがる ・コミセンみずしろギャラリーの有効活用
人 材	市民が、市民活動・ボランティアに 参加するきっかけ作り	・市民活動をしていない人への きっかけ作り ・若い世代や退職者世代を市民活動に 巻き込む ・団体の人材確保	・団体名の入ったみずしろフェスタのチラシを小・中学校に 配布したことによりみずしろフェスタの認知度が上がり、 市民と団体とのマッチングが出来た ・来場者数が昨年に比べ1.7倍に増え、1,784人となり、 子どもを含めた若い世代の姿も多く見受けられた	・参加する意欲はあるが、行動に 移せない。 ・現状維持で停滞し、活動の継続が 困難となってきた ・高齢化や人材不足により、思うような 活動につながらない	・団体イベント情報の発信	・市民の市民活動への参加が増える ・団体の人材が確保されることにより、団体活動が 継続される
意 見 交 換 会	様々な団体との交流機会の創出	・様々な団体と交流し、情報交換する ことにより、団体が抱える課題を解決 する糸口を見つける	・みずしろフェスタや実行委員会を通して、繋がりのない 団体をマッチングし、新たなネットワークの形成をした ・平成30年7月 市民活動講演会第2部にて他団体の活動を認知出来た ・平成31年2月 助成金活用発表会第2部にて交流会を開催し、 他団体の活動を理解出来た	・現状維持で停滞し、活動の継続が 困難となってきた ・高齢化や人材不足により、思うような 活動につながらない	・他分野団体とのマッチング （マッチングシートの作成）	・顔の見える交流をすることで、協働事業の実施に繋がる ・他団体が、違う視点で課題を発見することができる ・団体同士での繋がりができ、活動していくうえで、 活動の幅が広がる
活 動 発 表 会	みずしろフェスタの継続開催	・フェスタの認知度の向上による 参加団体の増加 ・市民活動の認知度の向上	・コミュニティセンターを全館（1F・2F）使用し、出展団体が 22⇒33団体に増える ・来場者数が昨年に比べ1.7倍に増え、1,784人となった （H29年1,029人） ・実行委員会を5月～10月まで毎月開催し、フェスタの内容を 市民団体主体の自主的な意見として、形に出来た	・出展団体の新規参加団体の伸び悩み ・市民と団体による自主的な運営 ・（来場者）リピーターの確保	みずしろフェスタの継続開催 & 活動報告	・団体同士の交流が図られ、活動の幅が広がる ・コミセンみずしろが多く団体に利用され、利用率が あがる ・市民が市民活動を知る機会が増え、市民活動が 更に活発になる
	活動報告会	・活動を知ってもらうことにより、市民への 活動を始める足がかりを作る	・平成30年7月 第7回市民活動講演会後、3団体の活動報告会を開催 ①NPO法人CILひこうせん ②特定非営利活動法人キャンパー ③社会参加サポートネットブランチ 様々な分野の団体が集まり活発な意見が交わされ、 有意義な交流会となった ・平成31年2月 助成金活用団体の成果発表会を開催 ①NPO法人CILひこうせん ②行田ゼーライフ研究会 ③行田市太井地区自治会連合会 ④特定非営利法人行田観光物産会 ⑤NPO法人ふるさと創生クラブ	・活動を知る機会がなく、 又、はじめるきっかけが出来ない	・市民に市民活動を知ってもらう ・市民が、市民活動・ボランティアに 参加するきっかけ作り	・色々な人と共通認識を持つことができる
講 演 会	市民や市民公益活動団体による講演会 （サポートセンター 共催）	・各団体が必要と感じているテーマで 自ら開催することにより、同じ課題を 持つ団体と意識共有を図る	・平成30年7月 市民活動講演会 特定非営利活動法人きょうだ市民Sネットと共催で開催 「地域のチカラでまちづくり ～コミュニティカフェ幸茶店ができるまで～」 参加者 22名 共催として市民活動講演会に参加することにより、 行田市にはまだない団体の活動を認知出来た	・団体が求めている内容と相違している ・参加者が特定されている	・毎回、講演会のテーマを決めて 市民や市民公益活動団体による 講演会（サポートセンター 共催） & 活動団体の発表と交流会	・同分野の団体が集うことで、活動の幅が広がる ・他の団体と課題の共有ができ、課題解決へとつながる ・団体目線で講演により、参加者増につながる